

専門は対人コミュニケーションの研究

日常会話から人と人の関係づくりの仕組みを解明

■研究者をめざす
きっかけ

小学生の頃から、人の話し方や話されていることば、身振りに関心がありました。大学に入学し、日本語教育を学びながら会話を分析する面白さにひかれ、研究者を志しました。

■研究テーマ

地域の商店など「なじみの場」で人と人が直接、顔を合わせてやりとりを行う対面コミュニケーションを研究しています。人と人がどのようにコミュニケーションをつくっていくのか、そのプロセスの解明に取り組んでいます。

■研究内容

実際に瀬戸内海の島々や長野県の山間地域に出かけ、高齢者を対象に個人商店や移動販売などの

酒井 晴香さん

広島大学大学院人間社会科学研究科助教

場で、生の会話をビデオで録音・録画し分析しています。言葉だけではなく、表情や視線、声の抑揚、身ぶりなどを含めて詳細に調べ、「相互理解」が作られていくプロセスを明らかにしています。

け出した時、やりがいと手応えを感じます。

■これからの研究
目標

研究の社会貢献にも関心があります。今後、高齢化が進み、介護や日常生活にロボット技術の導入が加速する中で、重要なのは「過剰な介入を避ける」という視点です。すべての動作を代行するのではなく、相手の状況を詳細に把握し、必要な瞬間にのみ手を差し伸べる「適度な支援」が求められます。そのため、人間同士のやりとりにおけるメカニズムを解き明かし、その基盤となるモデルを構築することで、情報工学などの他分野と連携した実用的なシステムの実現に貢献したいと考えています。（山北）

■研究のやりがい

例えば、何気ない会話から「楽しそうだな」と感じられるその正体を、ビデオを見て分析し解き明かしていく過程に、この研究の醍醐味（だいごみ）があります。目に見えない「関わりの技法」を一つずつ言語化し、人々に共通するコミュニケーションの法則を見つ



何気ない日常会話の
仕組みを探る

1994年兵庫県生まれ。2017年筑波大学人文文学部日本語・日本文化学類卒業。2022年筑波大学大学院人間社会科学研究科「異文化博士課程文芸・言語専攻」修了。博士（言語学）。東京国際大学などを経て、2025年より現職。専門は相互行為論、社会言語学、言語人類学。



▲これまでの
若手研究者



広島県呉市の大崎下島で移動販売
コミュニケーションのビデオ収録調
査



長野県下伊那郡天龍村で調査報告
会を開催し、コミュニケーション分析
の結果を伝える